

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	岩国市立平田中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	3	4	1	13	23
生徒数	142	120	160	1	423	

研究の概要

1. 研究主題

<p>「自ら課題を見つけ主体的に活動する生徒の育成」 ～「確かな学力」の向上をめざして～</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>全学年・数学</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導内容の系統性が強く、理解度に差が出やすい教科であるため。 ・これまでの研究成果を生かし、実施学年の枠を広げ、研究に取り組むため。
--

(2) 年次ごとの計画

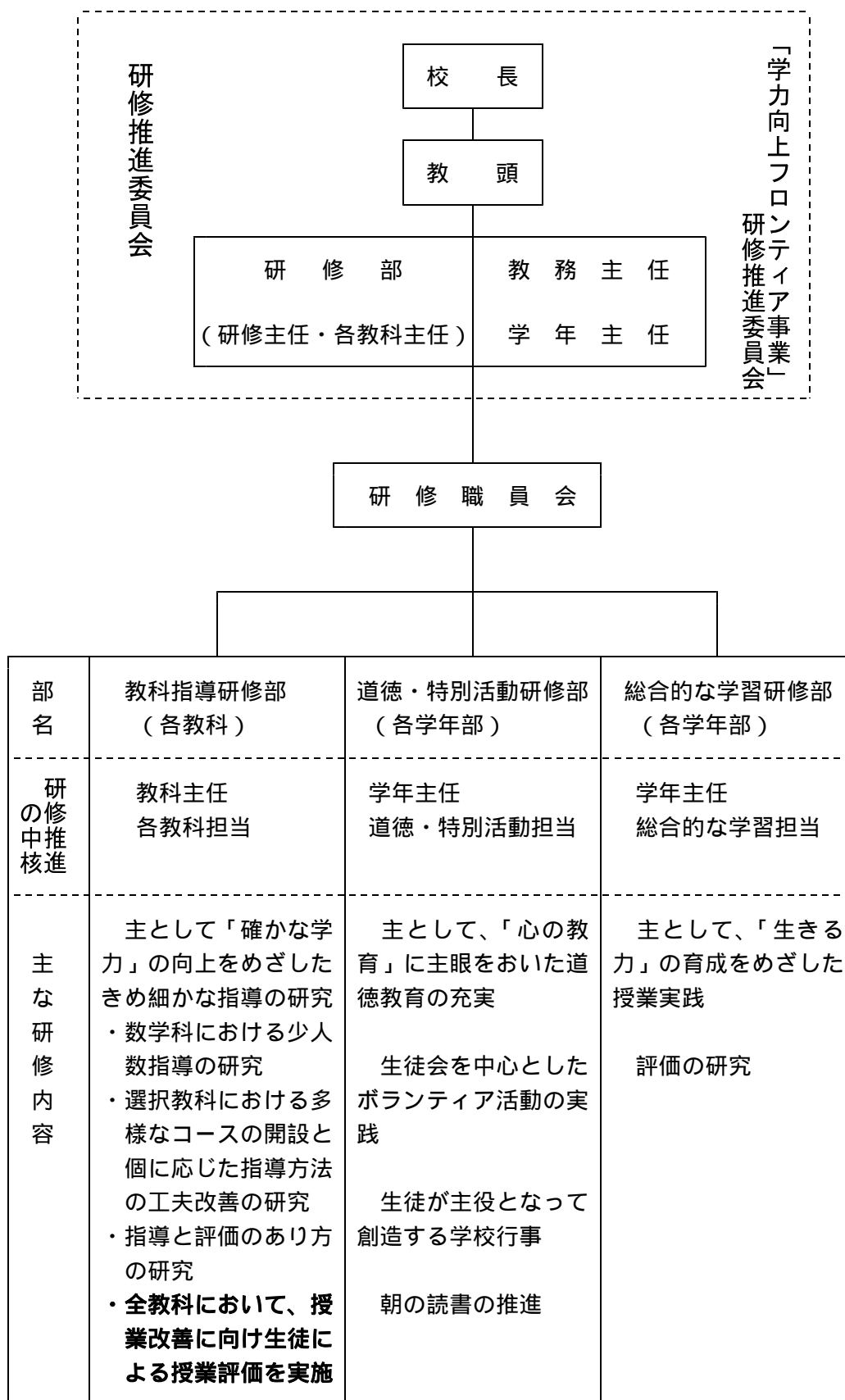
平成14年度	<p>テーマ 「自ら課題を見つけ主体的に活動する生徒の育成」</p> <p>仮説 少人数指導は「一人一人の実態に応じたきめ細かな個に応じた指導」を生徒一人一人に実施することである。つまり、生徒一人一人の実態に応じ「個に応じた指導」を展開することがねらいである。</p> <p>したがって、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「分かる」ことが実感できる授業を仕組み、単に基礎的な知識や技能の習熟を図るだけでなく、数学的な見方・考え方や処理する能力を養う。 ・一斉授業と少人数指導、個別指導のバランスの中で、個々の生徒の能力を最大限に引き出すことができるよう配慮する。問題が「易」から「難」へスモールステップで進むような配列を考え、「できた」「分かった」の連続の中で自ら主体的に学ぶ意欲を養う。 ・自ら学ぶ学習態度の育成を図るために、作業学習にも時間を割き、自ら規則性や法則性が見いだせるような指導過程を工夫する。 <p>これらを追求し、達成感を味わえる授業を展開することによって生徒は自信を持ち、自ら課題を見つけて主体的に活動する生徒へと成長すると考える。</p> <p>研究の内容・方法</p>
--------	---

	<p>授業の実施形態として、T.T、少人数指導、習熟度別学習が考えられる。</p> <p>各実施形態には特徴がありその長所と短所が存在するはずである。本年はその特徴を明確にし、単元ごとにその単元で身につけさせたい力を生徒につけるには、どの実施形態で行うのが効果的であるか、また、同じ単元の中でも、教材によっては実施形態を変えるほうが効果的な授業を仕組める場合がある。</p> <p>どの教材でどの実施形態を採用するのが生徒の課題解決していく能力を引き出しやすく達成感を味わえる授業となるのか、比較検討し、次年度の実施計画に生かせる資料を作成する。</p>
--	---

平成15年度	<p>テーマ 「自ら課題を見つけ主体的に活動する生徒の育成」 仮説</p> <p>数学科においては、平成14年度の成果と課題を基に、少人数のクラスの中でも学力差があることを前提に、段階を踏んだプリントの作成など、できるだけきめ細かな教材、教具を準備することで、より確かな学力の向上をめざせると考えた。</p> <p>さらに、数学科だけでなく他の教科においても、主題に基づいて、学力向上に向けての努力点を設定し、研究を進めた。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>数学科では、全学年で少人数指導を実施した。しかし、習熟度別に分けても、今までと変わらない授業をしていたのでは、同質の生徒が集まった分、多様な意見や考えが出にくくなり、自分の中に取り込むことは難しい。これでは、個々の学力を効果的に伸ばすことにつながらない。</p> <p>そこで単元ごとに学年統一の評価規準を作成し、これをもとにコースごとの達成目標を設定した。コースごとの達成目標に基づいて教材を工夫し、どちらのコースの生徒も達成感を味わい、学習意欲の向上をめざした。</p> <p>また、全教科で生徒による授業評価を実施し、授業改善や個に応じた指導に生かすこととした。</p> <p>選択教科については、個に応じた指導を充実させるため、発展選択・補充選択などの多様なコースを開設し、確かな学力の向上を図った。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 「魅力ある授業の創造」 ～生徒による授業評価を生かして～</p> <p>研究の見通し</p> <p>平成14年度は数学科の少人数指導を中心に、平成15年度は数学科の少人数指導とともに、全教科において学力向上への努力点を設定し研究を進めた。その成果と課題を基に設定する予定である。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>数学科の少人数指導については、1年次、2年次の研究から授業効果を上げるための効果的なグループ編成や教材の工夫を引き続いて進めていく。</p> <p>また、全教科共通して、生徒による授業評価を実施し、魅力ある授業を創り上げるための研究を進める。</p> <p>選択教科については、個に応じた指導を充実させるため、発展選択・補充選択などの多様なコースを開設し、確かな学力の向上を図りたい。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



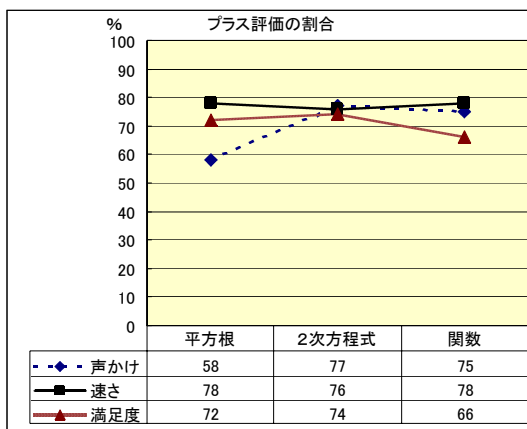
平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 個に応じた指導を効果的にするグループ編成

右のグラフは数学科の少人数指導実施クラスでとったアンケートの結果である。教師からの声かけや授業を進める速さ、授業の満足度に対してプラス評価をしている生徒がほぼ7割以上であることがわかる。

このことから、いろいろな面で差のある生徒たちの学力を伸ばすためには、個別の指導が行いやすい少人数クラスで授業を行うことは大変有効だと考える。



(2) 習熟度にあった教材の工夫

授業評価アンケートを実施することによって、生徒の実態を把握することができ、教材研究に生かすことができた。

数学科3年(ゆっくりクラス)では学習プリントの先頭に「今日のポイント」として授業で理解して欲しいこと、できるようになって欲しいことを記載し、授業の始めに確認するようにした。これは、生徒にとっても教師にとっても目標がはっきりして有効だと考える。

(3) 授業評価を生かした授業改善

授業に関するアンケートを実施することによって、生徒の意見を聞くことができ、教師自身の指導の在り方について振り返ることができた。そのことは、よりわかりやすい授業を行うための教材研究を進めるきっかけとなった。

また、すべての生徒にできるだけ多くの声かけをしようという意識が強くなった。生徒自身も、「どうすれば、学習したことがわかるようになるか」「少しでも多くのことをわかるようになりたい」という意識を持つ生徒が多くなった。

このようなことから、生徒の声を吸い上げるためにアンケートを実施することは、学力を向上させるために効果的だと考えられる。

2. 今後の課題

少人数指導におけるグループ編成については、単に少人数に分けるのではなく、同じレベルの欲求を持ったグループになるよう編成することが大切である。今後も生徒自らが学習効果が上がるグループを選択できるよう助言していきたい。

教材の工夫では、各教科とも基礎学力の定着をめざし、十分な時間を与えて教材に取り組ませている。しかし、授業時間には限りがあるので、より精選した教材を与えることが課題となってくる。

授業評価アンケートでは、項目数が多すぎたり、内容や表現の仕方が難しすぎると、アンケートに答えることが面倒になり有効な意見が出にくくなるように思われた。また、実施回数、実施間隔も考慮しなければマンネリ化して、有効な意見が出にくい原因にもなると考えられる。これらのことに配慮しながら、今後もより有効な意見を吸い上げるためのアンケートを実施していきたい。

学力把握のための学校としての取組

(1) 評価テスト

定期試験や各教科の授業における評価テストや小テストにより学力を把握する。なお、数学科は習熟度別に少人数指導を実施しているが、定期試験の問題は同じ問題で実施している。

また、計算クラスマッチ・漢字クラスマッチ・英単語クラスマッチ等を実施し、学力及び学習意欲を知る手だてとした。

(2) 授業に対するアンケート・学習到達度アンケート

各教科で生徒自身に授業に対するアンケートやその単元の理解度をみるアンケートを単元途中や単元終了時に行い、個々の生徒の得意な内容、不得意な内容などを把握した。

(3) 評価・評定

評価テストにおける観点別到達度、ワークシート・小テスト・レポート・ノートなどを点数化し評価している。

関心・意欲・態度、各教科の考え方については、授業における発言の内容や取組を客観的に評価することがよいと考えるが、授業中細かく記録を取ることが不可能なため、ワークシートやレポートを綴じたファイルやノートの提出状況、内容、整理の状態などを中心に評価している。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

・校内研修の公開及び研究協議

平成16年1月14日(水)

校外からの参加者

岩国教育事務所長他2名、岩国市教育委員会教育センター次長他1名

平田小学校教諭2名、通津中学校(フロンティアスクール)3名

・地区協議会での発表

平成16年1月19日(月)

管内小中学校・教育委員会関係者、フロンティアスクールの保護者・地域住民代表者。計80名

・HPの開設

授業評価アンケート掲載

・研究冊子の配布(3月、岩国教育事務所管内小・中学校へ)

・保護者へ学力向上フロンティア事業に関するアンケート実施

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他

【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無